

地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌



公立南丹病院

Nantan General Hospital

Vol.7

2010.10
Autumn

京都・兵庫・鳥取を結ぶ

ドクターヘリ 搬送開始



京都府、兵庫県、鳥取県が共同運航する京都府内初の「ドクターヘリ」が平成22年4月17日の就航に先立ち、3月26日、当院のヘリポートでの離着陸試験を行った。神戸空港を離陸したヘリコプターは約30分で公立南丹病院に着陸し、機体の説明や見学を終え、次の会場である与謝の海病院(所要30分)へ旅立った。4月17日より救命救急センターがある公立豊岡病院(兵庫県豊岡市)を拠点に、亀岡市以北での重症患者の搬送に活躍している。

《関連記事→7ページ》

Contents

「がん診療の現状と課題」	2
「陰圧創傷治療システム」について	3
「平成 22 年度 亀岡市総合防災訓練」に参加して...	3
「肩周囲筋力」のトレーニング	4
平成 22 年度インフルエンザワクチンの製造株が決定	5
平成 22 年度「第 2 回在宅緩和研究会」	6
薬学生実務実習の受入について	6
茄子の紫色の色素が老化やガンを防ぐ	8

臨床研修指定病院 京都府がん診療連携病院
救急指定病院 日本医療機能評価機構認定病院
へき地医療拠点病院 第二種感染症指定医療機関
地域周産期母子医療センター 地域災害医療センター

公立南丹病院

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野 25 番地
TEL 0771-42-2510 FAX 0771-42-2096
<http://www.nantanhosp.or.jp>
発行：広報委員会

「がん診療の現状と課題」

統括部長（兼）外科部長
上田 祐二



昭和 56 年以降本邦では“がん”（医学用語で“悪性新生物”ともいわれます）が死因の第 1 位であり、今や 2 人に 1 人が一生の間に 1 度は癌を患い、3 人に 1 人が癌で亡くなる時代です。これは死因第 2 位の心疾患の約 2 倍の頻度であり、がんは国民の健康を保持するために特に広範かつ継続的な医療の提供が必要である疾患として平成 18 年に国が定めた“4 疾患”のトップに位置づけられています（4 疾患のその他は、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病です）。その結果、皆さんも耳にされたことがあるかと思いますが、国の施策としてだけではなく「がん患者・患者会」の声を広く反映した法律として、平成 19 年 4 月に“がん対策基本法”が施行されました。この法律は、がん医療全体の改革を成し遂げるために、①がん医療の均てん化（がん患者がその居住する地域にかかわらず等しく科学的知見に基づく適切ながんに係わる医療を受けることができるようにすること）、②がんの予防と早期発見の推進、③がん研究の推進、の 3 つを骨子にしています。この中で特に一番目のがん医療の均てん化は重要な課題であり、京都府下全域でこの施策の早急な実現のための改革、医療連携が急激に進んできています。府内のどこにおいても質の高いがん医療が提供できることを目的に、平成 20 年 12 月には京都府独自の制度の一環として、当院が南丹医療圏唯一の地域がん診療連携協力病院に指定され、名実ともにこの地域のがん診療を担う中核施設として認定されました。

その当院におけるがん診療の現状と課題について述べさせていただきます。がんには様々な臓器に由来するものがありますが、細分化された各専門診療科の医師が看護師、薬剤師とともにその治療にあたっています。白血病などの血液のがんを除いて、その他の臓器由来の進行した固形がんの場合は、手術のみで治療が完結することもあります。手術と化学療法（抗がん剤治療）を併用する場合が非常に多いのが実際です。化学療法はがんの進行度に応じて手術の前に施行する

こともありますし、手術で取りきれなかった病巣あるいは手術で取りきった後の再発を予防する目的で手術の後に施行することもあります。近年は新しい抗がん剤の出現が相次ぎ、それに伴い化学療法が進歩し、手術と化学療法を組み合わせた固形がんの治療成績は私が医師になりました 4 半世紀前に比べますと格段に向上しています。また、昔と異なり今は多くの化学療法が通院で施行できるようになり、当院では本館 2 階に 6 床（リクライニングシート）を有する通院治療室（点滴による抗がん剤治療を行う外来患者専用の治療室）を平成 19 年 9 月に開設し、専任看護師を配して患者様の利便性、安全性に配慮した治療を行っています。手術におきましては、外科系各科（外科（消化器・乳腺）、呼吸器外科、泌尿器科、婦人科、耳鼻咽喉科等）が毎年多くの癌手術を手がけ、日々その手技向上のため研鑽を重ねています。南丹医療圏の対象人口は 15 万人前後ではありますが、例えば昨年の胃癌手術件数（45 件）や大腸癌手術件数（73 件）は京都市内の大学附属病院の約半数に達しています。地域の特性として高齢者が多く、症状がありながら受診が遅れられる場合もあり、いわゆる“がん救急”と呼ばれる腸閉塞症状や病巣からの急激な出血により緊急手術となることもしばしばあります。

がん診療には今まで述べてきました“治療”以外に、“診断”と“緩和ケア”という 2 つの大きな領域があります。がんは痛みを中心とした身体的苦痛や、死と向き合うという精神的苦痛を伴う疾患です。緩和ケアは従来よく口にされたいわゆるがんの終末期医療という概念とは異なり、それら患者様の有する苦痛にがん治療の早期から医師や看護師、薬剤師が介入し、モルヒネを中心とした鎮痛薬や種々の治療薬の処方、あるいは肉体的・精神的サポートにより、がんと共に生きていくための医療行為全般を指しています。がん診療の中核を担う施設での緩和ケアへの取り組みは、“病”を診るのではなく“人”

を看る全人的医療の観点から今後ますます重要であり、当院におきましても、がん治療と緩和ケアを境なく継続的に行えるシステム、チーム医療の構築が大きな課題であると考えています。医師不足や病院をとりまく厳しい経営環境が足かせとなりなかなか早期実現が困難かも知れませんが、院内の緩和ケアチームのより一層の充実と緩和ケア病棟の併設、そして何より、がん治療のみならず除痛を中心とした緩和ケアのためにも、放射線治療機器の導入が望まれます。

「陰圧創傷治療システム」について

皮膚・排泄ケア認定看護師
船越 千里

陰圧創傷治療システム V.A.C. (Vacuum Assisted Closure) .ATS 治療システムとは、日本で初めて薬事承認を受けた陰圧創傷治療システムのことです。平成 22 年 4 月の診療報酬改定により、局所陰圧閉鎖処置に対して、診療報酬請求ができるようになりました。まだ当院では使用症例はありませんが、数名の医師と 40 名近くの看護師がトレーニングを受け、いつでも使用できる環境が整っています。これまでは専用の医療機器がなかったため、既存の創傷被覆材やガーゼと吸引チューブを用いて、自作の局所陰圧閉鎖療法を施行していました。



創が治るためには、酸素を必要としますが閉鎖してしまうと、低酸素状態になります。ではなぜ創を閉鎖して陰圧をかけると治癒が早まるのでしょうか。閉鎖することで、組織は酸素を求めて、のびていこうという性質

があります。低酸素状態では血管が密に新生され、肉芽の形成が助長されて、創の治りが早くなるということにつながるのです。

この V.A.C. 治療システムは、グラニューフォームという食器洗いに使うような目の粗いスポンジを創内に埋め、その上からサランラップのような透明のフィルムを貼って密封したあと、 -125mmHg の吸引圧で引きまします。あっという間にスポンジが小さくなり、創の形が明確になります。2 日に 1 回交換します。肉芽形成が非常に速いので、交換するときには、スポンジ（グラニューフォーム）に肉芽がひっついていくくらいの時もあります。外傷性裂開創、縫合後離開創、術後開放創、皮膚欠損創、四肢切断創、ポケットがあるような組織欠損の大きな褥瘡などに効果があるといわれています。

導入によるメリットは、創傷治癒促進されることで、在院期間短縮、入院費の負担軽減、創傷の治癒を促進させる環境が整うことで、簡単な手術による閉鎖などが期待でき、患者さまにとっても低侵襲な治療が提供できるということがあります。

公立南丹病院としてはこのような最新の治療のもと、患者さま中心の医療を行い、患者さまから愛され信頼される病院をめざしていきたいと考えています。

「平成 22 年度 亀岡市 総合防災訓練」に参加して

去る平成 22 年 9 月 4 日（土）午前 6:30 ～ 午前 11:30 まで、月読橋球技場（亀岡市馬路町）にて平成 22 年度亀岡市総合防災訓練「かめおか防災ふるさと力向上訓練」が行われ、消防、警察、自衛隊など多くの参加がありました。当院からは医師・看護師・技師などから構成される DMAT（災害派遣医療チーム）および、当院の看護専門学校 2 年生が全員参加しました。当日は、9 月上旬とは思えない酷暑の炎天下での訓練となりました。

公立南丹看護専門学校（2 年生）

山本 智香

災害を想定した訓練に参加させてもらい、災害の場で私たちが目指す看護師に求められることをイメージ

することができました。

消防の方や自衛隊の方は、専門的技術と知識で要救助者の救助や消火活動をし、地域の方々は、消防の方々と協力し負傷者を助け、医療従事者に引き継ぐ。私たちはその方々が必死に繋いだ命をまた次に引き継ぐことが役割だと思いました。



災害の場では収拾がつかなくなるほどに負傷者が発生すると思います。そこで、円滑に命のリレーが進むよう、まず看護師が行うのが治療の優先順位を決めるトリアージでした。優先順位を決めるということは辛い場面に遭遇することもあると思いますが、自分に求められる役割を認識し、全体を見渡して判断できるようにならなければいけないと感じました。だからといって流れ作業になってしまうのではなく、恐怖と不安でいっぱい負傷者やその家族に対して、たとえ一言の声かけであっても精神的サポートが同時にできるように強い心をもって看護を実践したいと思いました。



災害の場において看護師に求められることは冷静かつ迅速な対応、判断力、観察力、精神的サポートだと思いました。今回、訓練に参加させてもらって何より感じたことは災害現場は時間との闘いということでした。このような貴重な体験ができて本当によかったです。

公立南丹看護専門学校(2年生)

小林 未佳

今回の防災訓練に参加し、私は救助される側と災害ボランティアとしてトリアージを行うという両方を体験しました。まず、救助される側の体験では、実際にもこのような場面に自分が遭遇したらとても不安や恐怖でいっぱいになるだろうと感じました。そんなときに救助に来てくれた方の存在はとても支えになりました。

そして実際に看護師の方にトリアージを受け、素早く的確な情報収集で患者の重症度を見極めることの大切さを知りました。また自分がトリアージを行った際は、何を聞いたらよかったのか、患者の何を観察しなければいけないのかなど、少し混乱してしまいました。災害が起きた時、一番不安でパニックを起こすのは被災者です。

看護する側は一人でも多くの命を救うため様々な人と連携をとり、確かな知識と判断力を持ち、負傷者の緊急度や重症度を判定し手当てを行うことや、被災者の不安や恐怖を少しでも軽減できるような声かけで多くの人を支えるなど、災害現場で多くの重要な役割を担っているということが分かりました。今回の災害訓練に参加し、普段できないとても貴重な経験をすることができ、多くの学びを得ることができました。

「肩周囲筋力」のトレーニング

作業療法士
恩村 直人

① はじめに

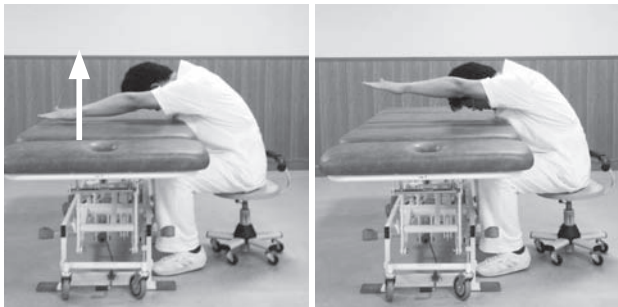
今回は肩周囲筋としてインナーマッスルおよび僧帽筋のトレーニングを紹介します。インナーマッスルとは肩甲骨に直接張り付いている筋肉です。

② 注意事項

肩の痛みがある方、肩で通院中の方、全身状態のすぐれない方などは必ず医師の診察のもと指導を受けて下さい。今回はあくまで痛みがなくケガ等をしていない方を対象としていますのでご注意下さい。また、疼痛が強い場合やトレーニングにより増悪する場合は速やかに中止して医師に相談して下さい。

③ トレーニング方法は？

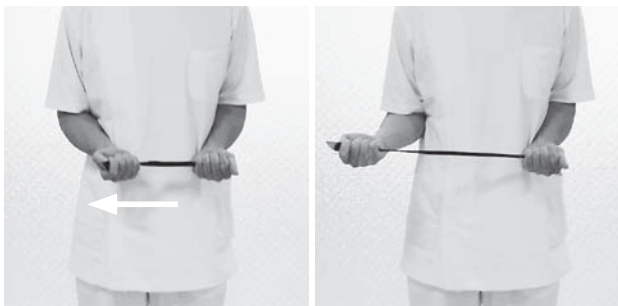
ゴムチューブを利用したトレーニング方法を紹介します。



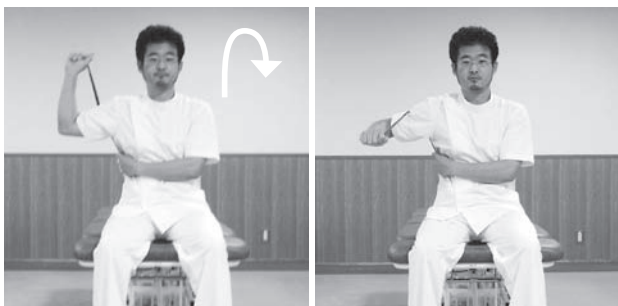
挙げた腕を後ろや上に引くように運動します。肩甲骨が回旋しやすくなり挙上を手助けしてくれます。



腕を前方45度に脇を広げるように運動します。



脇を閉じて肘を90度に曲げた状態で外側に開くよう運動します。



肘を90度に曲げた状態で腕を横に90度～130度程度に開き前腕を前に倒します。

平成22年度 インフルエンザワクチンの 製造株が決定

薬剤部

山下 彰良

口蹄疫もようやく収まりつつあり、平成22年度インフルエンザワクチンの製造株が決定されました。これは昨シーズンの国内外の流行情報、流行株の解析情報から例年6月に決定されます。今シーズンのインフルエンザワクチンは、新型インフルエンザと季節性インフルエンザとを組み合わせた混合ワクチンとなります。昨シーズンのように、新型と季節性を別々に接種する必要もなく、今のところ新型インフルエンザの優先接種対象者も定められていません。インフルエンザワクチンは、個人差はありますが、接種からその効果が現れるまで通常約2週間程度かかり、約5カ月間その効果が持続するとされています。また、過去にまったく感染歴やワクチン接種歴の無い場合と、免疫学的記憶のある場合のブースターとではワクチンの効果に差があると考えられています。

通常日本のインフルエンザの流行は12月下旬から3月上旬が中心となりますので、12月上旬までには接種をすまされることをお勧めします。接種回数は昨シーズンと同じく通常13歳以上は1回、13歳未満は2回です。今シーズンのワクチンは9月までに製造され、下旬頃より出荷が開始、10月中旬には接種が開始できるものと思われます。インフルエンザの製造株は日本全国共通で、医療機関によって差がないため、どこで接種されてもその効果は同じです。今シーズンのワクチン製造予定量の最大量は、現時点（7月）で2900万本であり、厚労省は「十分な製造・供給能力が確保されている」と予測しています。社会的関心・流行状況の変化等により需要予測を上回った場合でも、ほぼ十分な製造量が確保されとの考えを示しています。なお、この製造量は厚労省が記録を保存している1986年以降では最多とのことでした。

また、ワクチンはそのシーズンに流行すると予測されるウイルスを使用して製造されますが、ワクチンに含まれている株とその年の流行株が異なった場合には、その効果は減少します。しかし、予防できるものは予防していく、これからもこの考えが重要だと思います。

平成 22 年度 「第 2 回在宅緩和研究会」

緩和ケア委員会（看護部）

川眞田 千鶴

平成 22 年 8 月 24 日に南丹保健所主催、公立南丹病院共催で、「第 2 回在宅緩和研究会」が当院で開催されました。

はじめに「在宅緩和ケアにおける看護の実際」というテーマで「訪問看護ステーションこころ」の中尾美千代所長より、緩和ケアの概念、全人的苦痛、緩和ケアの定義、緩和ケアの要件などについて、講演をしていただきました。

在宅ホスピスケア（在宅緩和ケア）とは、治療の見込みがないと医師から言われ、遺された最後の貴重な時間を家庭で過ごしたいと願う患者さんや家族の思いを実現するケアである。また、在宅ホスピスの目指すもの（緩和ケア）は、死に逝く人が自分の生き方と死に方を全うできるように支援する。残された家族が、また、新しく生きて行く力を得るために支援する。ケアをする人たちが、死に逝く人のケアを通して学び成長していくことである。

事例を通して看護の実際について、体験談をまじえながら詳しく話をしていただきました。その中で、在宅での看取りは、慣れ親しんだ場所で家族に看取られて最期を迎えられるため、亡くなられた時に泣かれる方は少ない。良かったと話される穏やかな看取り。家族全員やケアする人たちが死についてどのように感じとり学ぶことができたかという事を知る貴重な講演内容でした。

次に「在宅・緩和ケアにおける褥瘡ケア」について、公立南丹病院 皮膚・排泄ケア認定看護師である船越千里師長の講演があり、内容は、皮膚の構造・機能、皮膚の保湿ケアの重要性、褥瘡分類について基本的なことを話していただきました。

続いてがん患者の褥瘡ケアについて、発生概念、褥瘡処置方法、薬剤の特徴、床ずれ予防シート、在宅で使用可能な創傷被覆材、非固着性ガーゼなど、また、低栄養状態をどうするかまで、幅広くより具体的に説明していただき、大変分かりやすく実践に役立つ貴重な講演内容でした。

参加者は 98 名であり、南丹医療圏における医師、

保健師、薬剤師、看護師、リハビリ、ケアマネジャー、福祉関係など多くの職種の方に参加していただきました。受講者のアンケートでは、お二人の講演については大変好評でした。在宅緩和ケア推進にあたっては、十分な体制が整っていないのが現状です。

今後は南丹保健所をはじめ、地域の医療機関、地区医師会かかりつけ医、訪問看護ステーション、薬剤師会、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などとの連携強化をはかっていく必要があります。当院は、京都府がん診療連携病院としての役割が果たせるよう、今後も努力していききたいと思います。

薬学生実務実習の 受入について

薬剤部主任

中上 達矢

平成 22 年度から、薬学生の長期実務実習が始まりました。これは、薬学部が 6 年制になったことにより、すすめられてきた事業です。5 年生になった薬学部の学生が病院 11 週間と調剤薬局 11 週間、合計 22 週間大学を離れて、調剤の実際を体験することになります。薬学生といっても、実務実習を行うに必要な資質があるか否かを評価する薬学共用試験が大学間の格差なく適正に実施されています。4 年生で薬学に関する問題 300 問を 5 時間で解く CBT（Computer-based Testing）や実際の調剤を行う OSCE（Objective Structured Clinical Examination）試験を受からなければ 5 年生に進級できないため、知識や技術においては問題ないレベルとと思っていただけたらよいと思います。それに加えて、大学において実務前実習といって、実際の病院や薬局を想定した実習を十分受けてきます。

学生の実習先は、全国を 8 ブロック（地区）に分けたブロック内にそれぞれの病院・薬局実務実習地区調整機構があり、学生の希望や病院の受入態勢に合わせて決定します。受入可能施設は、どの病院でも可能ですが、薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師「有資格者」が必要になります。

実習生の極端に減少している地域は慢性的に薬剤

師不足となっている地域と重なり、薬剤師の地域偏在が助長されることが危惧されます。そのため当院でもこの地域で必要となる薬剤師を育成するためにも、学生の受入を積極的に行う必要があると思われます。

カリキュラムは、1コマ90分で1日5コマの実習を行います。南丹病院での実習初期は、実際の薬を知るために錠剤の名前、剤型、色、識別コード、薬効、用法・用量、副作用、類似薬、相互作用などを学習していきます。その後、散薬、水薬、軟膏、クリーム、湿布薬、点眼薬、点耳薬、点鼻薬、坐薬、吸入薬等の使用方法や保管方法を学習します。注射剤調剤においては、注射剤の取り揃え、配合変化、投与時間などを確認し、無菌室において無菌的に注射剤の調製を行います。医薬品管理では、医薬品の在庫を適正に管理すると共に、医薬品が不足しないように発注をかけることを行います。薬剤管理指導業務では、入院された患者様の持参されたお薬を調べ、服薬状況の把握、副作用

用や相互作用の有無をチェックし、服薬している薬の説明や指導を行うなど様々な業務を体験していきます。また、今後ますます他の診療部門との連携も必要となるため、チーム医療、他部門見学も行っています。そして、それぞれのコマに対し評価を行い、実習終了と共に総合評価を学生が属する大学へ提出することにより、学生の単位取得が決定されます。

すでに、1期の学生2名が実習を終え、9月からは2期の学生が実習を行っています。当院における薬学生の実習に皆様のご理解とご協力をお願いします。

表紙の関連記事

ドクターヘリの受け入れについて

循環器内科部長兼救急部長
計良 夏哉

報道等でご存知の方もおられると思いますが今年の4月から兵庫県の公立豊岡病院ではドクターヘリの運航が開始されています。兵庫県但馬地域の全部、鳥取県東部地域、京都府北部地域を対象にした日本でも初めての三府県合同の事業です。ドクターヘリ（通称ドクヘリ）は15分で到着できる半径50キロ圏の出動要請が原則ですが、それ以上でも有効と考えられる事案には対応できることとなっています。60キロになると京丹波町、70キロになると南丹市、80キロになると亀岡市が含まれ、公立南丹病院はこのたび京都府で4つの搬送先医療機関の1つに指定されました。

ドクヘリの出動は、119番通報を受けた消防本部の判断で要請が行われ、基地病院側はただちにヘリを出発させることになります。ヘリは患者が発生した最寄りの着陸可能な場所に向かい、救急車とランデブーしてドクヘリ医師、看護師による救急医療が開始されま



す。この臨時着陸地点は小中学校やスポーツ施設のグラウンドなどで京丹波町では13、南丹市では23、亀岡市では5ヵ所が指定されています。その場所での救急処置が終わると、最寄りの医療機関か豊岡病院まで搬送するかが決定されます。

当院へはこの8月までに4件計4名の患者（いずれも二市一町の現場から）が京都中部広域消防組合の要請した豊岡ドクヘリにより搬入されました。いずれも当院到着時には点滴や気管挿管などの高度な救急処置が豊岡病院の医療チームにより行われていました。

当院のヘリポートは第二病棟の屋上にあり、救急車の搬入口とは全く場所を異にしているためにICUの看護師の協力のもとで院内のマニュアルを作成して、連絡橋の第二病棟側で引継ぎを行い一旦ICUに収容するなど、ドクヘリのメリットを活かした診療が引き続いて行えるように工夫しています。

menu

秋茄子 博多揚げ

Healthy Recipe



材料 (2人分)

秋茄子	2 個	小麦粉	大さじ 3 杯
さつまいも	40g	卵	1 個
大葉	2 枚	油	適量
れんこん	60g	●天だし汁	
むきエビ	100g	だし汁	1/2 カップ
卵白	1 個分	酒	小さじ 2 杯
辛子	少々	みりん	小さじ 1 杯
塩	少々	しょうゆ	大さじ 1 杯

作り方

- ①茄子は半切りにして、水にさらしてアクを抜いておきます。
- ②むきエビはすり鉢又はフードカッターですり身にして、塩を加え卵白でつなぎます。
- ③①の茄子は切込みをいれ②のすり身を挟み、薄衣をつけ、油で揚げます。
- ④れんこんは皮をむいて、アク止めをし、スライスして辛子を塗り薄衣で揚げます。
- ⑤さつまいもはスライスし、大葉とも薄衣で揚げます。
- ⑥天つゆを添えます。

茄子の紫色の色素が 老化やガンを防ぐ

管理栄養士長八木 成子

実の 90%以上が水分で、豊富なカリウムとともに利尿効果が期待できます。茄子で注目すべき成分は表皮の紫色にしているナスニンというアントシアニン系の色素といえます。

この色素はポリフェノールの一種で、強い抗酸化作用があり、老化やガンを防ぐ効果が期待できるほか、アントシアニンには、目や肝臓の機能を向上させる働きや、血圧の上昇を抑える働きもあります。ナスニンにはコレステロール値を下げて動脈硬化を防ぐ働きもあります。アントシアニンもナスニンも、皮の部分に含まれています。

良い茄子の選び方はヘタの切り口がみずみずしくヘタのトゲがチクチクと元気なもの。全体に濃い紫色でツヤがありハリがあって弾力があるものです。

一口メモ

茄子は体を冷す？

茄子は秋になると皮がやわらかく、実が締まっておいしくなります。茄子には熱をさます効果があります。

「秋茄子は嫁に食わすな」。これは「秋茄子はおいしいので嫁に食べさせるのはもったいない」という意でなく「からだを冷すので妊婦のからだにはよくない」という意なのです。

編集後記

平成 21 年 3 月に、病院の広報誌を発刊して約 1 年半となりました。最新の情報を発信すべく作成して参りました。正面玄関受付横でご自由にお持ち帰りいただく他に、近隣の医院・病院等に配布し、およそ 3 ヶ月に 1 回我々の活動をお知らせしております。今季号 (10 月号) より印刷を外部発注し、装いも新たになりました。今後も変わらずご愛読いただきますようお願い致します。

広報委員会：岩田 譲司

